

日立プラントメカ

ゴミの攪拌最適化

一般廃棄物 処理施設向け ITシステム開発

日立プラントメカニクス（山口県下松市、赤坂聡社長、08333・41・3080）は、ゴミ焼却用クレーンの攪拌作業を最適化できるITシステムを開発した。一般廃棄物処理施設向けで、ピットにためたゴミの質が安定するまで自動でクレーンが攪拌作業を行い、ゴミを焼却しやすくする。システムの標準価格は1000万円（消費税抜き）。年4件の販売を目指す。



一般廃棄物処理施設ではゴミをピットにためた後、焼却炉に投入する。炉での燃焼効率を均一化するため、ピット内でクレーンを使ってゴミを攪拌して質を安定化させる。従来、作業者が経験則で作業しており、必要以上クレーンで攪拌していたり、反対に攪拌が足りず焼却炉を傷めたりする課題があった。

日立プラントメカニクスが開発したのは、ゴミ質安定化システム「ブレンディングコントロール」で、4月1日に発売する。

ゴミの積み替え回数などのデータに基づき、攪拌度合いを数値化する「攪拌係数」を考案。この攪拌数と重量の2点を基にゴミ質を判断し、基準値になるようクレーンを自動操作する。

同システムはパソコン上で稼働し、日立プラント製のクレーンに後付けできる。同社はクレーンの既存顧客に提案するほか、クレーンを提案する際の付加価値システムとしても売り込む。

ゴミをどの程度攪拌すれば良いかの基準を持たない施設が多く、常時クレーンを動かして過度に攪拌する事業者がいる一方、十分に

攪拌作業を行わない事業者もあるという。攪拌作業を最適化できれば、クレーン使用の低減や焼却炉の安定利用につながり、設備の省エネルギー化や長寿命化を実現できる。発電機能を持つ処理施設にとっては発電の安定化にもつながるとしている。